

(事例9) 60歳男性、現場作業、網膜色素変性症のため配置転換

類型	症候	疾患
2, 4, 5	3. 視力低下	18. 網膜色素変性症

きっかけ	<input checked="" type="checkbox"/> 健康診断の有所見	<input type="checkbox"/> その他の機会
1. 対象者のプロフィール 1) 年齢、既往歴 60歳 男性 2) 業種、作業内容 現場作業からデスクワークへ		
2. 就業制限・配慮の対象となった疾病、健診値異常 例) 高血圧、HbA1c 高値、腰痛など 網膜色素変性症		
3. 就業制限・配慮の内容 例) 高所作業禁止、出張禁止、残業禁止、配置転換、治具導入など 要就業制限 デスクワークに支障なし、ただし利用しやすい機材やソフトウェアなどの導入にご 配慮下さい。		
4. 事例の詳細(背景、経緯、特に考慮した事情など) 健診にて網膜色素変性症治療中との記録、および視力高度低下(0.1程度)のため面談を行 い治療状況、業務状況を把握した。 当初、単独行動不可(付き添いありでの現場立ち入り可)としたが視力低下が進んだためデ スクワークのみとした。現在シニア雇用継続中である。		
5. 就業制限・配慮の主な目的(複数回答可) ②企業リスクが予見されたため(交通事故、公衆災害の発生など) ④職場や企業への注意を促すため(例:過重労働職場に対し、残業を一定時間以下に制限するなど) ⑤健康上の理由や能力的な適性から業務を制限する場合 (例:弱視者のVDT作業、疾病などによる計算力低下⇒配置転換検討など)		
6. 就業制限を実施するにあたって注意した事、阻害要因、問題点などあれば教えて下さい 本人の働きたい意思と安全確保という面で悩ましい事例だった。数年単位の時間・症状の変化と 本人の受け入れ、周囲の協力などもあり職場での安定した受け入れにつながった。		